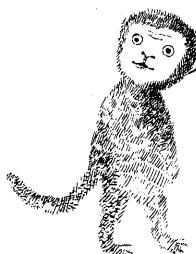


夢の日々

二人で入園し、 三人で卒園(二)

大多和 檀



前回は思わず、地元の紹介になってしましましたが、せいちゃん、ふみちゃん、そして私の夢も叶えていた生活の大変な環境として、幼稚園そのものがどうだったか、ということがあります。

少人数ということをさることながら、歩いて二十分程度の所に、人數的にあまり差のない区立幼稚園が二つあり、園長、主任が、基本的には「形式はらずにお互い自然な形で交流し、少人数のデメリットを少しでも解消しましょう」という姿勢をとつてくれたこと

が、とても大きかったと思います。

そのお陰で、中でもS園とは、卒園まで兄弟園のように何かと行き来し

——この道中でも“地元発見”的樂

しみがありました。大きなパン屋さ
んを見つけ、ガラス窓にへばりつい
て天火から出てくるパンを見たり、

ふみちゃんの好きなインコを飼つて

いる家を見つけたり、路地に入った
ら、先生だけ太すぎて抜けられなく
なったりと……、園外保育も日

▼ S園の同年齢のお友達

S園のT君はクラスでは男の子一人で
したので、せいちゃんとすぐお友達にな
りました。



▼S園と一緒に砧公園へ

落葉のフトンは気持ちがいい!
ふみちゃんとSちゃんが落葉を集めて
います。

程を合わせて出かけていき、お互い
せいちゃん、ふみちゃん以外の同年
齢の友達も見つけました。

又、図書館も十分程度の所にあ
り、ここでS園と待ち合わせしたこ
ともしばしばあります。公園内にあ
る図書館ですので、本を借りたあと
で、普段一人では非常に疲れてしま
うリレー、鬼ごっこを楽しんだもの
です。

こういった事自体が、今の私の園



から見ると夢のような生活です。

この図書館利用というのは私にとっては神明幼稚園に来て初めて体験したことでした
が、びっくりしたのは、子どもたちが、たくさんある本の中からちゃんと自分に合った本
を見つけてくることです。

ふみちゃんは鳥が好きで、どうしてか鳥の出ている本を見つけてきます。せいちゃんは
虫の図鑑とか細かい絵のある本です。

これもなんと幸せな事だったかと思します。たくさん絵本に囲まれ、自分のペースで
ゆっくりと選んでくる時間があるという……。今私のいます横浜の瀬谷区ではそうはいき
ません。図書館は遠いし、道路状況が悪くてとても歩いて行かれません。それで、園内に
図書室っぽい場所を作ろうと今、予算のやりくりをしているところです。

さて、もう一つ、神明幼稚園は小学校との併設園だったということがあります。

小学校も少人数ですから、行き来が本当に自由でした。

休み時間になると砂場に遊びに来たり、二人のお店やさんごっこのお客さんになつてくれ
たり、スキーゴっこに加わったり、虫の名前を教えてくれたり——私がカマドウマとい
う虫を知ったのも小学生からです——、運動会の練習を応援したり、プールを使ったり、
大カルタ大会と一緒に楽しんだりと……。

何事も無理なく一緒にを行い、小学生がお世話をしてくれました。

▼七月はふみちゃんの誕生日の月

せいちゃんはふみちゃんに内緒で、ド
レスを作ってプレゼントしました。

学校にはよく業者の人に入つて作
業をすることがあります。ある日、
プールのフタあけ作業があり、これ
を目にした二人は、三人のおじさん
が汗をかいて慎重にフタを重ねてい
る姿をじっと見ていました。せいじ
君が思わず「すごいね、力持ちだね
!!」と言うと、おじさんが「この板
に比べたらみんななんか軽い軽い」
と言って、ふみちゃんの肩の上をつ
かんで持ちあげてくれ、「ワー
!!」ととびっくりしたこともありま



した。

そして、何より他学年のクラスと自由に行き来できたことです。外遊びはもちろんのこと、部屋の中でも、トイレをはさんで両方に部屋があるため、何気なく雰囲気を感じとり、遊びに加わったりできました。

この当時の二人は、せいちゃんは何にでも興味を示し、「楽しいね」「ふみちゃんもやろう」と、ふみちゃんに声をかけ、一方、ふみちゃんは一人で書いたり作ったりする事が好きで、遊びには自分から「入れて」と言えず、せいちゃんから声をかけられるとホッとするしそうな顔をする、という状態でした。

ですから二人でいるとあまり波風が立たない状態でしたが、年長さんが加わる事によつて、「変なの、この絵」とか「泣いたって入れてやらない」と言われる事もあつて、「困つた、どうしよう」「そんな事言われると悲しい」という事を感じるとても大切な体験だつたのです。

(ま)と幼稚園